

「使えるる製品」「使えない製品」

第10回 椅子

高齢になっても
椅子の生活を維持するには



①株オリバー製のSCW5400

②同SCW 5510

考えである。②は椅子をかたづけたり移動する時の利便性を考慮したもの。③は、車椅子使用の方が増えてくると、椅子を片付けておかなければならず、多く積み重ねることができず、収納に便利だ。

椅子の生活をあきらめない ホーム用家具でも対応可能

現在の高齢者住宅で使用されている家具は、ほとんどが業務用家具の範疇から選ばれている。ホーム用家具と業務用家具の違いは、その「堅牢さ」にある。ホーム用は家庭で使われるため、同じ人が使い、乱暴に扱われることも少ないこと

なくなっても座り心地のよさを追求する、というコンセプトでつくられたものだ。

これに私が初めて座った時の感想は、「ああ、椅子が私に合わせてくれる」というものであった。身体を椅子に合わせる世界から、椅子が身体に合わせる世界をはじめて体験した思いであった。その時これは年齢をとって身体が少々不自由になっても使い続けることができる椅子ではないかと思った。つまり高齢者になつてから買うのではなく、30年、40年と長きにわたって使い続けることができる椅子であり、年齢をとり身体が不自由になつたとしても椅子のもつ豊かな生活を続けることができる椅子だと感じた。

実際、少し身体が不自由になつた高齢者の購入もあるようだ。

いずれにせよ、高齢者住宅の居室の中心家具は、ベッドではなく椅子であることをもう1度考え直さなければいけない。



砂山憲一

すなやま・けんいち

1972年 SANT-LUC DE TOURNAI 建築学校 (ベルギー) 留学、1975年 京都大学工学部建築系学科修士課程修了、1981年 株ゆう建築設計設立。主な著書に『医療・介護・建築関係者のための高齢者の住まい事業企画の手引き』(学芸出版社)。最近の執筆に日経ヘルスケア別冊 拡大するシニアリビングVOL3『あなたの病院は増改築できますか? 建築家から見た療養病床転換の問題点』、『病院のための高齢者住宅開設マニュアル』(老人保健施設部分担当) (ともに日経BP社)

家具メーカーの分類と 福祉用家具の位置づけ

日本の家具メーカーは、ホーム(家庭)用家具メーカーと業務用家具メーカーとに大別される。さらに業務用家具メーカーは木製家具販売会社とステイール製家具メーカーに分かれる。

ホーム用家具メーカーの代表が(株)ニトリと(株)大塚家具であり、前者は最近ネット販売で躍進している。木製家具メーカーは(株)オリバー、カリモク家具販売(株)、(株)天童木工などであり、ステイール製家具メーカーではコクヨ(株)、(株)イトーキ、

を想定しているわけだ。

しかし高齢者住宅の居室内は「家庭」であり、同一の人が家具を使うことを考えれば、業務用の堅牢な家具は必要ではないという発想もできる。こうした考えに立てば、居室内に置かれる家具はホーム用家具でも十分なのである。

これからの高齢者住宅の住まい手は、子ども時代から椅子生活を続けてこられた方が増えていく。ところが、多くの高齢者住宅は居室内の家具はベッドが主役で、椅子やテーブルについてはあまり顧みられていないのが現状だ。

しかし、高齢になれば、それまで何十年と親しんできた椅子の生活を捨てなければいけないのか。ソファにゆったり座り本を読んだり談笑した生活を捨てなければいけないのか。普通の椅子から、



③株オリバー製のタモ手すりソファ (SSF116)



④同布ソファ (SSF3968) の使用イメージ

(株)岡村製作所、(株)内田洋行などがあげられる。ホーム用家具販売会社は福祉用家具を取り扱っていないが、業務用家具メーカーはそれぞれ医療・福祉用家具製品をもち、販売している。

オリバー製品にみる 福祉用椅子の特徴

オリバーは業務用木製家具のトップメーカーであるが、驚いたことに福祉用椅子の売上げが、椅子全体の20%を超えている。毎回、本連載でみているように、建築・設備関連メーカーでは、「高齢者用」という発想が希薄で、専用カタログ

すぐに福祉用の椅子に移行しなければいけないのか——そのような疑問から椅子の世界を探ってみると「使える製品」が見つかった。

高齢者に最適な カタログに表記なし

まずオリバーのカタログからは、2つのソファを探し出した。

1. タモ手すりソファ

写真③のソファ(SSF116)は一見ごく普通のソファに見える。ところが細かいところで高齢者用の配慮がされている。その特徴を列挙しよう。

- ①座の奥行きが480mmで一般製品の奥行きより短くなっている。
- ②ひじ掛けの先端を伸ばし、立つときに握りやすくしている。
- ③座面に硬めのウレタンを使用し、沈み込みを抑えている。

2. 布ソファ

写真④のソファ(SSF3968)もごく普通のソファだが、高齢者への配慮がその形を決めている。高齢者は30分ほど座っていると疲れてきて、横側へ凭れたくなるということを考えてアームの形状が決められているのである。

いずれのソファもカタログではこのような特徴は一切説明されていない。せ

つかく高齢者にふさわしい製品なのに、なぜカタログに表記しないのか理解に苦しむところだが、私はこのような製品は、豊かな椅子生活を続けるためには「使える製品」だと思っている。

高級家具にも 高齢者に「使える製品」が

椅子をいくつも訪ね歩くなかで、驚いた製品がある。(株)アルフレックスジャパンが発売する「ガール」シリーズの「1人掛けタイプアームソファ」(写真⑤)だ。椅子に座るといことは、基本的に椅子に自分の身体を合わせることである。そのため高齢者にとっては椅子に座ることが徐々にそれほど楽しいことではなくなるのかもしれない。そうしたなか、前出の高齢者へ配慮した椅子は、不自由な身体でもより使いやすい仕様を求めてつくられている製品といつてよい。

ところがこの「ガール」は高齢者向けにつくられたものではない。コストが高



⑤株アルフレックスジャパンの「ガール」シリーズ「1人掛けタイプアームソファ」